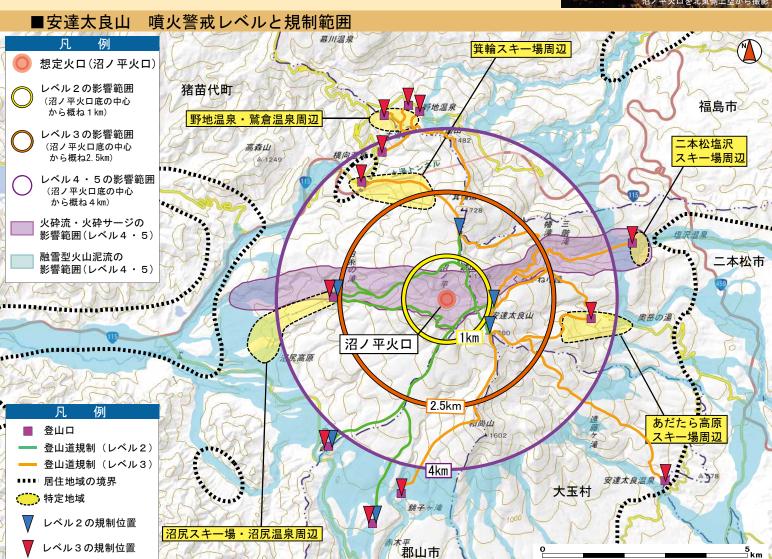
安達太良山の頃の管理が多い

— 火山災害から身を守るために —

- ●噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- ●各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。
- ●安達太良山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。





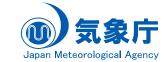
この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

※図中の特定地域とは、居住地域よりも安達太良山の想定火口に近い所に位置する、または孤立が想定される集客施設を指します。居住地域より早期に 避難等の対応が必要になることがあります。

※火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流の影響範囲は、「安達太良山火山噴火緊急減災対策砂防計画」(平成27年3月)に基づき作成しています。
※融雪型火山泥流の影響範囲は、最大規模のマグマ噴火が積雪期に発生し、高温の噴出物が放出され火口から4km以内の積雪を融かし周囲に流下した場合を想定したものです。

■安達太良山の噴火警戒レベルは、安達太良山火山防災協議会において協議、作成されました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、 地域防災計画等で定められていますので、詳細については、二本松市、福島市、郡山市、猪苗代町、大玉村、本宮市にお問い合わせください。





仙台管区気象台 地域火山監視・警報センター TEL:022-297-8164 https://www.data.jma.go.jp/sendai/

福島地方気象台 TEL:024-534-2162 https://www.data.jma.go.jp/fukushima/

安達太良山火山防災協議会事務局:福島県 TEL:024-521-7194 https://www.pref.fukushima.lg.jp/



安達太良山の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者 ・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域から の避難等が必要。	 ●火口から概ね4km以内の居住地域に大きな噴石が 飛散するような噴火が発生、あるいは切迫してい る(火砕流・火砕サージは居住地域近くまで)。 ●融雪型火山泥流が居住地域に到達、あるいは切迫 している。 過去事例 有史以降の事例なし
)又は噴火警報		4(高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される (可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地 域での高齢者等の要 配慮者及び特定地域 の避難、住民の避難 の準備等が必要。	 ●火口から概ね4km以内の居住地域に大きな噴石が 飛散するような噴火の可能性(火砕流・火砕サー ジは居住地域近くまで)。 ●融雪型火山泥流が居住地域に影響を及ぼす噴火の 可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
警報	噴火警報(火口周辺)	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで 重大な影響を及です (この範囲に入った 場合には生命に危険 が及ぶ) 噴火すると あるいは発生すると 予想される。	住民は強いない。 は強いないでは は強いないで は は は は は は は は は は は は は は は は は は り は り ま い に る り ま り は り に る り ま り に り に る り ま り に る り ま り に る り ま り ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま	 ●火口から概ね2.5km以内に大きな噴石が飛散、火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が流下するような噴火の発生、またはその可能性。 過去事例 1900年7月17日:沼ノ平火口で水蒸気噴火
	又は火口周辺警報	火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及 ぼす(この範囲に入 った場合には生命に 危険が及ぶ)噴火が 発生、あるいは発生 すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規 制等。 状況に応じて特定地 域の避難の準備等が 必要。	●火口から概ね 1 km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生、またはその可能性。 過去事例 1899年8月24日:沼ノ平火口で水蒸気噴火
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山である)	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山 灰の噴出等が見られる(この範囲に入っ た場合には生命に危 険が及ぶ)。	状況に応じて火口内 への立入規制等。	●火山活動は静穏。 ●状況により火口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。 過去事例 1996年9月:噴気30m、沼ノ平中央部で泥が噴出し直径100mに飛散 2000年2月:一時的に噴気が300mまで上がる

※特定地域とは、居住地域よりも安達太良山の想定火口に近い所に位置する、または孤立が想定される集客施設を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがある。

※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町村の地域防災計画等で定められています。

■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。 https://www.jma.go.jp/jma/index.html

